

【戦略7】水産業のさらなる振興

豊かな海づくり大会を契機とした水産業のさらなる振興を図り、ブランド化や消費拡大による漁業者の所得向上を目指していく。

(1)-① 海面漁業生産基盤強化プロジェクト

【目標指標】

目標指標	現状値	H29目標値	H32目標値
漁業の新規就業者数 (4年間の累計)	51人 (H24~27)	15人	70人
漁業試験調査船新船建造	25年経過	基本設計	H31竣工

【29年度の主な取組み】

○水産業の人材育成

- ・漁業就労への動機付けから独立・定着までの各段階に応じた体系的な支援による新規就業者の育成・確保
- ・生産、流通、加工など水産業に係る担い手の育成・確保対策を検討する協議会の運営(6月協議会設立)



○漁業のトップランナーの育成

- ・漁業の生産性の維持・向上により所得向上を図るため、基幹漁業である底びき網漁業やはえ縄船等の代船建造を支援

○漁業試験調査船「最上丸」の新船建造など水産関係インフラの維持整備

- ・漁業試験調査船「最上丸」を平成31年9月までに新造するため、基本設計を実施

基本設計
平成28年12月~平成29年11月

建造発注手続き
平成29年12月~平成30年3月



(1)-② 県産水産物付加価値向上推進プロジェクト

【目標指標】

目標指標	現状値	H29目標値	H32目標値
海面漁業・養殖業生産額	27億円(H27)	29億円	33億円
水産物平均単価	450円/kg	500円/kg	590円/kg

【29年度の主な取組み】

○新たなトップブランド水産物の創出

- ・水産関係者が一体となり効果的にブランド化を推進するための協議会の設立(5月)
- ・新たな品質基準による「庄内おぼこサワラプレミアム(仮称)」の創出
- ・冬の観光資源として「トラフグ」のブランド化の推進
- ・周年利用可能な「天然マダイ」の品質向上によるブランド化



○鮮度保持技術及び蓄養技術の推進

- ・活越技術※の導入(12月~2月)による鮮度保持技術の高度化と品質向上のための技術開発支援など
- ・魚価の安定化につながる出荷調整を可能にする蓄養技術の活用支援



※漁獲されて疲弊した魚を安静に蓄養して、体力を回復させ旨味を増す技術

